



# The Baseball Hall of Fame and Museum

## 公益財団法人 野球殿堂博物館

### 収集資料検討委員会設置について

館長 廣瀬 信一

当館は1959年に開館して、本年で56周年を迎えることとなりました。以来、皆様方のご協力により収蔵品は年々増加し、博物館資料は約4万点、図書資料は約5万点に達しました。また、ここ数年当館の認知度が高まるにつれ、大変ありがたいことに、寄贈申出件数が大幅に増加し、寄贈資料が急増しています。このような状況の中、“野球博物館”として、未来に何を残すかを検討することが必要となりました。

また、昨年当館の職員が米国の野球殿堂博物館へ視察に行った時に、資料収集の際には委員会が寄贈受託の判断をしているといった、具体的な話を教えていただきました。当館では、米国の野球殿堂を参考に、昨年の12月に館内に「収集資料検討委員会」を立ち上げました。

「収集資料検討委員会」の概要は次の通りです。

名 称：収集資料検討委員会

発足日：平成26年12月1日

委 員：館長・管理部長・学芸員・司書

目 的：資料の収集方針、収集の手順を整備し、寄贈時の審査を組織的かつ円滑に行う。また、「資料寄贈申込書」を作成し、資料寄贈者から当館へ移る寄贈資料に関する諸権利を明確にする。

#### 〈資料収集方針〉

当館のコレクションには、実物や写真類等の博物館資料と図書室で管理する図書資料の2種類があります。博物館資料の収集方針及び範囲は、過去から現在までの日本野球史にまつわる資料です。現在は、とりわけ下記の資料を積極的に収集しています。

- ① プロ野球、アマチュア野球で日本記録、世界記録等顕著な活躍をしたチーム、選手にまつわる資料
- ② 野球殿堂入りの方々にまつわる資料
- ③ 野球日本代表侍ジャパンと国際大会の資料
- ④ 昭和20年代以前のプロ野球、アマチュア野球に関する資料

図書資料については、国の内外を問わず、野球に関する本・雑誌を収集しています。現在は、とりわけ下記の資料を収集しています。

- ① アマチュア野球の連盟史や部史、大会のパンフレット、リーグ戦のパンフレット
- ② 地方出版で野球に関わる本・雑誌
- ③ 海外の野球に関する本・雑誌
- ④ 昭和20年代以前のプロ野球、アマチュア野球に関する本・雑誌

#### 〈資料寄贈のご案内〉

当館への資料寄贈をご希望の方は、「寄贈申込書」に記載されている権利に関する注意事項をご了承の上、必要事項にご記入いただき、収集資料検討委員会宛てにお申込み下さいますようお願い致します。

「寄贈申込書」は、当館ホームページからダウンロードいただけます。また、郵送も承りますので、下記までご連絡下さい。

なお、収集資料検討委員会での検討の結果、寄贈をお受けできない場合もございますので何卒ご了承くださいますようお願いいたします。

今後とも、野球殿堂博物館の円滑な資料収集活動にご協力をお願い申し上げます。

申込先：公益財団法人野球殿堂博物館 収集資料検討委員会

〒112-0004 文京区後楽1-3-61 お問い合わせ先 Tel：03-3811-3600 (代表)

## 〈維持会員制度〉

当館の事業運営にご賛同いただき、ご支援いただくのが維持会員制度です。現在法人会員49社、個人会員94名（3月31日現在）の方々にご支援をいただいております。誠にありがとうございます。

この維持会員制度の規則は1960年4月1日に施行され、その後1989年11月8日に現行に近い規則に改正施行されました。現在維持会員には、法人会員、個人会員、ジュニア会員（小・中学生対象）の3種類があり、特典は以下のとおりです。

1. 博物館発行「ニュースレター」（季刊）の送付
2. 何度でも無料で博物館に入館できる優待証を発行
3. 会員以外の方でも利用できる博物館招待券を進呈
4. イベント情報などを優先的にご案内
5. 博物館発行の「野球殿堂」を進呈（法人・個人会員入会時）
6. 博物館ピンバッジを進呈（ジュニア会員入会時）
7. ミュージアムショップのお買い物を10%割引
8. クーパースタウンの野球殿堂の入場料が無料



また、「野球殿堂博物館を応援しています」など、維持会員としての呼称を法人企業の広報活動に利用することもできます。さらに今年1月の「殿堂入り記者発表」では新たな試みとして、会見当日を臨時休館とし維持会員の皆様にご案内状を送付し、多くの会員の方にお越しいただき記者発表を開催いたしました。その他、昨年「講演会」「トークショー」などのイベントをシーズンの節目ごとに積極的に開催し、維持会員の優先席をご用意いたしました。今後も維持会員の皆様にご参加いただけるイベントを多数企画してまいりたいと存じますので、引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。また、この機会に社でもお一人でも多くの方々に、当館の趣旨にご賛同いただき、ご加入下さいますようお願い申し上げます。

館長 廣瀬 信一

### 〈ご入会の方法〉

①当館ホームページからダウンロードしていただくか、館内にあります「維持会員募集のご案内」の「入会申込書」に、必要事項をご記入のうえ、係りにお渡しいただくかお送りください。

なお「維持会員募集のご案内」は郵送もいたしますので、ご希望の方は博物館までご連絡ください。

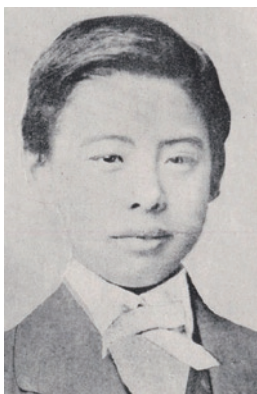
②「入会申込書」が届きしだい維持会費のご請求書をお送りしますので、維持会費をお振込みください。

【お問い合わせ 博物館 業務部(TEL 03-3811-3600)】

### 〈会員の種類と会費〉 年会費（4月～翌年3月迄）

・法人会員 1口 100,000円 ・個人会員 1口 10,000円 ・ジュニア会員（小・中学生） 2,000円

## もの 知ってほしいこんな資料(84)



平岡 熙氏

### ひろし 平岡 熙氏のアメリカ時代（1871～76年）

1871（明治4）年、平岡 熙氏は16歳でアメリカへ留学し、機関車製造技術やベースボールを修得しました。1876（明治9）年に帰国後は、日本初の本格的な野球チーム「新橋アスレチック倶楽部」を結成、多くの若者たちに本場の野球を伝え、1959年に野球殿堂入りしました。その平岡氏のアメリカ時代の足跡についてより詳細に調べるため、昨年夏よりボストンを中心に大学・図書館・博物館・歴史協会・鉄道関連施設に対し調査を始めました。また、昨年9月に中本管理部長と米国野球殿堂を訪問した際には、ボストン大学や公立図書館を訪れ現地調査を行いました。今回は、これまでに収集した情報の中で特に興味深い2つの資料を紹介したいと思います。

一つ目は、平岡氏が1897年4月に Institution of Mechanical Engineers（イギリスの機械技師協会）へ会員申請を行った際の申請書です。100語弱の紹介文には、平岡氏が1871～73年までボストンのグラマー・スクールで学んだこと、その後 Baldwin Locomotive Works（ボールドウィン機関車工場）で働いたのち、1873～76年までニューハンプシャー州マンチェスター市の Manchester Locomotive Works（マンチェスター機関車工場）で実習したこと等が記されています。申請書には同氏と証人5名の署名もあり、同協会によると平岡氏は会員として承認されたことから、ここに書かれている内容は信ぴょう性が高いと考えられます。



平岡氏が滞在したMt. Pleasant Placeの現在の様子

二つ目は、ボストン公立図書館所蔵の“Japanese Students in Boston Address Book 1871-1876”というノートで、1871～76年頃にボストンに滞在していた約75名の日本人について、ボストンでの滞在先やその後の移動先などが記載されています。レターサイズのノートにAからZの名前順で、手書きで記されています。教育者の Charles Knapp Dillaway氏が作成したと考えられていますが、なぜ、どのようにして作られたか詳細は分かっていません。この資料によると、平岡氏は清水（徳川）篤守らとともに渡米。ボストン到着後、Roxbury地区にある Mt. Pleasant Place 1 番の Boynton 氏 (Elizabeth Boynton と考えられる) 宅に下宿しました。1873年5月には近所に引っ越し、その後コネティカット州ノーリッチに滞在。74年1月にマンチェスター市に移動し、Blood氏（マンチェスター機関車工場（当時）の Aretas Blood と考えられる）宅に下宿しました。その後再びボストンに戻り、76年6月に帰国しました。

平岡氏を通ったグラマー・スクールは Lewis School と考えられ、現在の中学校に該当します。Lewis School は、1868年にボストン市 Roxbury地区の Dale Street と Sherman Street が交差する辺りに開校しました。平岡氏の下宿先 Mt. Pleasant Place から Lewis School までは、徒歩15分程の距離です。その後1911年に移転し、現在も Higginson Lewis School という名前で存続しています。当初 Lewis School があった場所は、現在は空き地になっています。同地区は、現在ではボストン随一のアフリカン・アメリカンコミュニティですが、平岡氏が通っていた当時は英国、アイルランド、ドイツからの移民が多くを占めていたようです。ボストン市によると、平岡氏が同校に在籍した公的記録は残っていないようです。しかしながら、当時の新聞に教員の投稿が残っており、平岡氏が渡米当初と比較して学業面で成長したことが記されています。



平岡氏を通ったLewis School跡地の現在の様子

イギリスの機械技師協会への申請書には、ボールドウィン機関車工場で働いたと記されていますが、同社はペンシルバニア州フィラデルフィア市を拠点としていました。Dillaway氏のノートには平岡氏が同市に滞在した記録はなく、また、ペンシルバニア州の鉄道博物館によると、平岡氏の在籍記録や1870年代の同社の従業員名簿等も残っていないことが分かりました。しかしながら、機関車に強い関心を持っていた平岡氏が、当時有名だったボールドウィン社と何らかの形で関わりを持った可能性も考えられます。

また、マンチェスター機関車工場についても平岡氏が在籍した記録が見つかりませんが、1874年9月の新聞には、ニューハンプシャー州の農産物品評会および芸術品・機械の展示会で、マンチェスターの平岡氏が機関車の製図を披露したという記事が残されています。このことから、平岡氏がマンチェスターの機関車工場と関わりがあった可能性も考えられます。

これら2つの資料は、平岡氏のアメリカ時代の経歴を探る上で重要な手がかりを与えるものです。また、Dillaway氏のノートには、のちに政治や外交等の分野で足跡を残した旧藩主家の名も見られ、その多くが同じ場所に下宿したり、入れ違いで入居していたことが分かります。このことから、平岡氏が遠い異国の地で様々な日本人と交流を持ち、人脈を広げていったことなども想像できます。

平岡氏が組織した「新橋アスレチッククラブ」  
中央が平岡氏

平岡氏は帰国後、アメリカから野球用具やルールブックを取り寄せ、学生たちに指導しました。今後はアメリカ時代の平岡氏と野球の繋がりについて、資料を収集し調査を継続したいと思います。

学芸員 稲垣 真理子

## 2015年 野球シーズン開幕イベント

### 3月14日 トークイベント「野球のプロフェッショナル」審判員編

トークイベント「野球のプロフェッショナル」審判員編を開催しました。講師は、野球規則委員で元NPB審判長の井野 修氏と、現NPB審判長の友寄 正人氏です。当日はまず始めに、注目を浴びた2014年日本シリーズ第5戦の優勝決定シーンの判定について、ホワイトボードを使用しながら詳しくご解説いただきました。また、井野氏・友寄氏の日本シリーズでの思い出や、審判員の育成過程について語っていただきました。その後は、今年の野球規則の主な改正点についてご説明頂きました。参加者の皆さんは、普段なかなか聞くことのできない審判員の専門的なお話や具体的なエピソードに熱心に耳を傾け、終盤には多くの質問が挙がり、プロ野球開幕を前に大いに盛り上がりました。



イベントの様子



井野氏



友寄氏

### 3月20日 トークイベント「野球のプロフェッショナル」スポーツ新聞記者、アナウンサー編

スポーツニッポン編集委員の永瀬 郷太郎氏、日刊スポーツ・デスクの飯島 智則氏、元ニッポン放送アナウンサーの胡口 和雄氏を講師にお迎えし、野球記者・実況中継の現場のお話や、選手・監督との秘話など、普段聞くことのできない数々の貴重なエピソードをお話し頂きました。また、その後は順位予想をしながら、今シーズンの見どころを語って頂きました。今回も参加者から様々な質問が挙がり、開幕を直前に大いに盛り上がりました。



イベントの様子



講師の皆さん  
右から胡口氏、飯島氏、永瀬氏



今シーズンの順位予想

### 3月28日～29日 バット製作実演

協力：ミズノ株式会社

日時：3月27日(金)、28日(土) 11:00～12:00、13:30～14:30、15:00～16:00

ミズノテクニクス株式会社の渡邊 孝博クラフトマンにお越しいただき、原料の木材やバット製作の工程についてのお話の後、20分ほどかけてバットを削っていただきました。その後の質疑応答ではさまざまな質問が挙がり、一つ一つ丁寧にお答えいただきました。両日とも、たくさんのお客様に渡邊クラフトマンの実演とお話を楽しんでいただくことができました。



イベントの様子



実演をする渡邊クラフトマン



質問に答える渡邊クラフトマン



2015年 野球殿堂入り  
林 和男氏

## 殿堂入りの人々を語る(47)

父であり監督であり野球界の恩人である林 和男の思い出

林 清一 (2015年野球殿堂入り 林 和男氏長男)

「おい、清一、硬球で試合をする野球チームを作らないか？」と聞かれたのが今から50年前のことでした。

小さいころから野球一筋の野球人「父・林 和男」に言われ、当時小学校五年生の私にとっては「やったー」と硬球を握れる楽しさと、野球ができる嬉しさでその日から選手集めに町中を駆け回って野球好きの友人を集めることに専念しました。ところが当時は「リトルリーグ？なにそれ？」とほとんどの仲間がそう答え、あまり見向きされませんでした。おまけに大人と同じ硬球を使う、と言うとますますみんな「怖い、危ない」と言って断られ続けました。そこで私は父に言われた言葉を思い出し、「日本一になるとアメリカでやる世界大会に行けるらしいぞ」という誘いの言葉で、一週間でなんとか11人集めチームらしきものを作りました。そんな調布のリトルリーグの始まりでしたので、もちろんユニフォームなど揃いのものなどなく、背番号は私の母が墨で番号を書き、みんなの白いユニフォームに縫い付けてくれました。当時子供たちに人気のあった背番号は、もちろん王さんの1番、長嶋さんの3番です。みんなその番号欲しさにジャンケンで決めたのを覚えています。

この頃、父は総監督としてチームを率い、試合を重ねるうち、「今の軟球を使った野球ではアメリカとこの先ずっと対等に戦えない」と感じ、この「リトルリーグ」という組織を日本全国に広めようと活発に動き始めます。また、1967年には西東京チームという選抜チームを率いて全国優勝。日本代表として憧れのペンシルバニア州ウイリアムSPORTの地での戦いに臨みます。そこで見たものは、世界中の子供たちが言葉も通じないはずなのに分け隔てなく一緒になって一日中遊んでいる姿でした。父は「これだ」と思ったのでしょうか、選手村に入った次の日から日本の選手たちに「他の国の宿舎にどんどん遊びに行っておい」と、今まで管理野球しかしなかった人がいきなり言い出したのです。こんなこともありました。当時水泳は野球人にとってタブーとみなされていましたが、他の国の子供たちは試合が終わると一目散にプールに飛び込んでいます。その姿を私たち子供でさえ「あんなに水で肩を冷やしてなに考えているの？」と冷やかな目で見ていました。しかし父は「アメリカがやっているのだから水泳はだめなわけがないだろう」と言い出し、「よし1試合勝つごとにプールで遊んでいいぞ」と、みんな自分の耳を疑いました。それにつられて連勝、また連勝。ついにワールドチャンピオンに輝くことができたのです。

帰国してからの父は、このすばらしい経験を日本の野球の好きな子供たちに一人でも多く経験させてあげたい、と願い今まで以上にリトルリーグの発展に力を注ぎました。さらには、12歳でリトルリーグを終え、また中学校の軟式野球に戻るのには残念だ、との思いからリトルリーグのお兄さん、と言う意味も含めて「リトルシニア」という中学生の硬式野球の団体を立ち上げました。小さなきっかけから今や創立40年以上が経ち、全国560チームの大きな団体に成長しました。この40年の間には数多くのプロ野球選手を輩出してきました。

父は今までに感謝状、表彰状、功労賞といったものには「一人じゃなにも出来ない、野球に携わった人たち全員でいただくものだ」というのが口癖でした。この野球界最高の名誉である「野球殿堂入り」の受賞もきっと天国から「みんなでいただいたものだから、みんなで喜びを分かち合いましょう」と言っているに違いないと思います。

※林 和男氏のレリーフは、表彰式でお披露目いたします。

## 野球殿堂博物館 トピックス (2015年2月~4月編)

**【3月2日】**

**北別府氏 (2012HOF)、田淵氏、掛布氏、江川氏来館!**

3月2日、テレビ番組の収録が野球殿堂ホールで行われ、北別府 学氏 (2012年野球殿堂入り)、田淵 幸一氏、掛布 雅之氏、江川 卓氏が来館されました!

殿堂ホールで自身ゆかりの資料を手に記念撮影



**【3月5日、6日】 欧州代表チーム来館!**

3月5日、6日、「ひかりTV 4K GLOBAL BASEBALL MATCH 2015」(3月10日、11日)に出場するため来日していた欧州代表チームが来館されました。



3月5日来館選手



欧州関係の資料を見る選手たち

選手たちは、日本のプロ野球選手の展示や、大リーグの展示などを見学し、最後は「バッターボックス体験」で侍ジャパンの選手と対戦しました。カメラを手に興味深そうに展示を眺め、終始楽しそうに過ごされました。



3月6日来館選手



**【3月10日】**

**「野球守」を侍ジャパントップチームの選手に贈呈しました!**

当館特製の「野球守」を、3月10日、11日に開催された「ひかりTV 4K GLOBAL BASEBALL MATCH 2015 侍ジャパン 対 欧州代表」に出場する侍ジャパントップチームの全選手に贈呈しました。当館では、今後も侍ジャパンの全世代の選手たちに贈呈する予定です。

※「野球守」については7ページの「博物館からのお知らせ」をご覧ください。

3月10日の試合前に、廣瀬館長より嶋主将へ贈呈

**[3月11日] CPBLコミッショナー御一行が来館!**

台湾プロ野球のコミッショナー、呉志揚・中華職業棒球大連盟(CPBL)会長、同事務局長の朱康震氏らが来館されました。御一行は、王貞治選手ゆかりの展示や特別展示「嘉義農林と映画『KANO』」(2015/1/17~4/5)、野球殿堂ホールを見学されました。その後、台湾野球ゆかりの図書資料もじっくりとご覧いただきました。



特別展示「嘉義農林と映画『KANO』」の前で記念撮影  
(右から2番目が呉氏、同3番目が朱氏)



廣瀬館長と呉氏

**[3月19日] 野球・ソフトボールのオリンピック競技復活PR映像発表記者会見が開催されました!**

野球殿堂ホールにて、野球・ソフトボールのオリンピック競技復活PR映像の発表記者会見が行われました。このPR映像は、全日本野球協会、日本ソフトボール協会、日本野球機構が、2020年東京オリンピックにおける野球・ソフトボールの競技復帰を



当日の様子



左から田中選手、上野選手

目指して制作したものです。会見には、PR映像に出演された田中賢介選手(北海道日本ハムファイターズ)と、ソフトボール日本代表の上野由岐子投手(ビックカメラ女子ソフトボール高崎)が出席されました。この映像は、3月21日開幕の選抜高校野球大会以降、野球・ソフトボールの公式戦が行われる球場で放映されます。

**博物館からのお知らせ**

**▶ 理事会**

3月9日(月)に都内のホテルにおきまして理事会を開催いたしました。

- 議題
1. 平成27年度の予算・計画承認の件
  2. 新評議員候補者承認の件
  3. 会議日程の承認の件

その他報告事項

1. 理事長及び業務執行理事の職務の執行状況の報告
2. 収集資料検討委員会設置の報告
3. 野球殿堂博物館検討委員会設置の報告

**▶ 「12球団デー」開催!**

野球殿堂博物館では、各球団のファンクラブ会員様へのサービスとして、東京ドームでの試合開催日に各1日ずつ「球団デー」を開催します。ジュニア会員、キッズ会員、一般有料会員の中学生は入館料が無料となります。なお、一般有料会員の大人は通常割引です。また、会員証をご提示いただいた入館者にはオリジナルポストカードをプレゼント(各日先着300名)します。特別展示など、当日限定のイベントも行います。

■日程

- |                    |                      |
|--------------------|----------------------|
| 5/13(水)広島東洋カープ     | 6/24(水)横浜 DeNAベイスターズ |
| 5/16(土)東京ヤクルトスワローズ | 6/29(月)福岡ソフトバンクホークス  |
| 5/28(木)埼玉西武ライオンズ   | 7/3(金)東北楽天ゴールデンイーグルス |
| 6/3(水)オリックス・バファローズ | 7/11(土)阪神タイガース       |
| 6/20(土)中日ドラゴンズ     | 9/2(水)千葉ロッテマリーンズ     |
- ※北海道日本ハムファイターズは4/8(水)、読売ジャイアンツは4/11(土)に終了しました。

**▶ 販売**

●野球殿堂 2015 価格2,700円(税込)

サイズ A5サイズ 249p

発行日 2015年3月20日

前回の『野球殿堂 2012』から、新たに殿堂入りされた10名の紹介に加え、館内や展示品の紹介、殿堂Q&Aなど新しい項目も増え、野球殿堂のオフィシャルガイドになっています。



●新商品「野球守」 価格800円(税込)

「ケガをしないよう」、「野球が上手になるよう」、「野球の試合に勝てるよう」等、みなさまの野球を応援するお守りです。袋の中にはグローブの革で作られたお守りが入っています。

\* 郵送もできますので、詳しくは当館へお問い合わせ下さい。



博物館のご案内	場 所	東京ドーム21ゲート右
	開館時間	3月1日~9月30日 AM10時~PM6時 10月1日~2月末日 AM10時~PM5時 (入館は閉館の30分前まで)
	入館料	大人 600円(500円) } ( )は 高・大学生 400円 } 20名以上の団体 小・中学生 200円(150円) 65歳以上 400円
	休館日	月曜日(祝日、東京ドームでの野球開催日、春・夏休み中は開館) 年末・年始(12月29日~1月1日)

《5月・6月・7月の休館日》

- 5月 11日・18日・25日
- 6月 1日・15日・22日
- 7月 6日・13日

※7月14日(火)~9月6日(日)まで休館日はありません。

●編集後記 紙面の都合により「こんにちは図書館です」「コラム博覧・博学」はお休みします。

野球殿堂博物館 Newsletter 第25巻 第1号

2015年4月24日発行(年4回発行)

編集・発行 公益財団法人 野球殿堂博物館  
(旧・財団法人 野球体育博物館)

〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61

Tel 03(3811)3600 Fax 03(3811)5369

http://www.baseball-museum.or.jp/



# The Baseball Hall of Fame and Museum

## 公益財団法人 野球殿堂博物館

### リレー随筆(59)

#### 「レジェンドたちにふれて」

競技者表彰委員会委員 菅沼 克至 (サンケイスポーツ)

プロ野球誕生から80周年のメモリアルイヤーだった昨年。貴重な経験をさせていただいた。

サンケイスポーツでは、球史を彩ってきた往年の名選手たちに自身の生い立ちや球歴、さまざまなエピソードを語っていただく「ありがとう八十年」という連載をシーズンにわたって掲載した。インタビューに応じていただいたのは、連載登場順に、王 貞治さん、金田 正一さん、広岡 達朗さん、関根 潤三さん、古葉 竹識さん、長池 徳士さん、若松 勉さん、杉下 茂さん、長嶋 茂雄さん。そうそうたる顔ぶれだ。

皆さんに共通しているのは、年齢を重ねても活力にあふれていること。そして、何より「野球を心から愛している」こと。これに尽きる。

長嶋さんには、長時間にわたって貴重なお話をうかがうことができた。脳梗塞で倒れたのが2004年3月。あれから11年がたった現在も、リハビリには週3回通い、毎朝5時半には起床し、30から40分ほどの散歩は欠かしていない。自らと同じ病に倒れた人たちに勇気づけたい…という思い。そして、自分に負けたくないという強い思いが、苦しいリハビリへと突き動かしているという。

昨年7月14日、東京ドームで行われた巨人・中日戦の始球式では金田 正一さんの投球を左手一本で持ったバットで打ち返した。聞けば、野球だけでなく、再び大好きなゴルフのラウンドをするのも大きな目標。親しいプロゴルファーには「左手一本でクラブを振るには、どうすればいい？」と質問することもあるという。

立教大時代からずっとファンや観客の視線を意識してプレーしてきたという長嶋さん。野球界の発展を願ってやまない。「プロ野球はファンあってのもの。子どもにも、おとなにも、いろいろな形で興味を持ってもらうことが必要です」とそれまでの柔和な表情を引き締め、口調を強めて語った姿は印象的だった。

杉下 茂さんのお元氣さにも驚かされた。1925年、大正14年生まれ89歳。この9月には90歳になられる。「フォークの神様」は、いまだに各球団から臨時コーチに招かれることが多く、今春も古巣・中日の沖縄キャンプに出向き、初日から打ち上げまで皆勤賞で自分の孫ほどの選手らにアドバイスを送ったという。

ゴルフも現役だ。冬場は控えていたラウンドを春の訪れとともに再開。月に3回から4回はコースに出て、スコア100前後で回るという。ゴルフを始めたのは、プロ3年目の1951年(昭和26年)2月、サンフランシスコ・シールズのキャンプに参加するため渡米した時。「クラブを握ったのは、自分がプロ野球界で最も早いのでは」と自負する。かつて300ヤード以上かっ飛ばし、60台で回った名手も、今は「エージシュートするのが目標」。まだまだ血氣盛んだ。

現役選手に対し、トレーニング、食事、睡眠…徹底した自己管理が必要と口を酸っぱくして説く金田さん。「昨日の〇〇監督の采配は…」「××選手の守備は基本ができていない」など、野球談議になると2時間でも3時間でも熱く語り続ける広岡さん。2020年の東京五輪での野球復活を切に訴える王さん…。

改めて痛感させられた。今のプロ野球は球界OBが残した足跡の上に立ち、その野球への愛情によって支えられ、育てられていることを。

「ありがとう八十年」は、このほど「レジェンドが語る あの日、あのとき」(産経新聞出版)と題され、書籍となった。一度、手に取っていただければ幸いである。